

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	生方 彩香	学校名	千葉県 流山市立向小金小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	たんぽぽ1組 7名
実践年月日もしくは期間（時数）		令和4年11月（9時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：自立活動 2：心理的な安定		
2. 単元(活動)名：これがあれば大丈夫！		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「防災」 単元目標：防災についての関心を高め、自分の心身を守るためにできることを考える。 関連する学習指導要領上の目標： 2 心理的な安定 自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対処するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図る。 (1) 情緒の安定に関すること 安定した情緒の下で生活できるようにする。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること 場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付ける。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地震による被害を知る。 ・自然災害から自分を守るために「備え」ができることを知る。
	②思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを落ち着かせるための方法を考えることができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを落ち着かせるための方法を日常生活の中でも実行しようとすることができる。
5. 単元設定の 理由・単元の 意義 (児童観、教材 観、指導観)	【単元設定の理由・単元の意義】 本学級の児童の多くが、自分の思い通りにならないときに、大きな声を出す、物や人に当たる、教室を飛び出す等の行動してしまうことがある。このような衝動的な行動は、本人が怪我をしてしまったたり、本人に悪気はないのに周りの人に迷惑をかけてしまったたりすることにつながるだろう。また、その結果として、本人の自己肯定感が下がることも考えられる。 衝動的な行動が特に見られない児童であっても、自分の気持ちから生じる行動をコントロールできるようにすることは、社会で他者とともに生きていくという面でも自分の心身を守るという面でも、必要な能力である。	

特に有事のときには、恐怖心や不安さからパニックになり、適切な避難ができずに二次被害を起こしてしまうことが想定できる。地震や火事等の災害があること、保護者の迎えが遅くなる等で不安な気持ちになる場合もあること、不安感を減らせるように備えができること等を予め知っておくことで、災害発生時の二次被害のリスクを少しでも減らすことができるのではないかと考える。

以上より、本単元を設定することとした。

【児童観】

本学級の在籍児童は、1年生2名、3年生3名、4年生1名、5年生1名の計7名である。子ども達同士の関わりが多く、休み時間に外で一緒に身体を動かしたり、会話を楽しんだりしている。お互いに声をかけて助け合ったり、上級生が下級生に範を示したりする姿も多く見られる。一方で、思い通りにならないことがあったときに、他人に攻撃的な言動をとったり、物に当たったりする等、自分の気持ちや情緒のコントロールの難しさがコミュニケーションをとる上で支障をきたす場面もある。

以上の実態から、本学習では、素直な気持ちや考えを安心して話して子ども達の対話ができるように、上級生にリーダーのような役割を与えたり、目を見て最後まで話を聴くことを意識させたりして、落ち着いた環境のもとで学習に臨ませたい。

【指導観】

本単元は、特別支援学校学習指導要領 自立活動編における「心理的な安定」と小学校学習指導要領 社会編における第4学年の内容「(3)自然災害から人々を守る」に関連する学習である。本単元の学習では、自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図ることに重点を置いて指導する。

6. 単元計画（全9時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	防災かるた	<ul style="list-style-type: none"> ・防災かるたを通して、楽しみながら防災についての知識を得る。 ・ルールを守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災かるたを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こくみん共済「防災かるた」
2	はてなかいぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害や防災についての疑問を洗い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の持つ疑問点を整理する。 ・地震、火事などの災害種、日頃の備え(備蓄品)、通学路や学校内等の場所に分けて疑問点の整理をする。 	
3 〜 4	はてなしらべ	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に挙げた疑問を解決していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室にある本や児童のタブレットを用いて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Yahoo!きっず ・「もしものときにきみならどうする？防災」(WAVE 出版)

4 ～ 5	地震による被害とその対策	<ul style="list-style-type: none"> 地震による被害を知る。 備えがあることで被害を最小限に抑えられることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に2011.3.11の地震発生時の話を聞く宿題を出す。聞いた話を児童間で共有する。 「仙台市立荒浜小学校」の東日本大震災での被害状況や避難状況を伝える。 写真を用いて教師自身の経験を伝える。 学校の備蓄倉庫の中を実際に見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仙台市立荒浜小学校」の写真や動画 学校内の備蓄倉庫
6 ～ 8 本時	自分にできる備え	<ul style="list-style-type: none"> 災害が発生したときの状況に適切に対応できるように備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害が発生したときにパニックになることがある、お家の人が迎えに来られなくて不安な気持ちになることがある等の精神面での影響についても考える。 自分の気持ちを落ち着かせるための方法やグッズがあるとよいのではないかとこの視点で考える。 考えたものを実際に作って用意する。 実際に自分達で作るという過程を通して、「みんながいるから大丈夫」という気持ちにもなれるようにする。 子どもの様子次第で、教師から「バンダナ」を提案する。 バンダナは傷口を覆うことができる。 	
9	防災グッズの発表	<ul style="list-style-type: none"> 作った防災グッズを他の学級の先生に紹介する。 非常時だけでなく、日常の中でも使っていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の学級の先生に防災グッズを紹介する。 自分の気持ちを落ち着かせるための方法やグッズは地震等の災害発生時だけでなく、日頃の学校生活の中でも使用できるのではないかとこの視点を持つ。 	
<p>7. 本時の展開（7時間目）</p> <p>本時のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害が発生したときの状況に適切に対応できるように備える。 自分の気持ちを落ち着かせる方法を考える。 				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態		指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの振り返り 地震による被害と対策 地震はいつくるのかわからない。だけど、備えることはできる！ 自分達の心を守るためにできる備え →心が落ち着く、安心する=ほっとする →ほっとバンダナを作ろう！ 		<ul style="list-style-type: none"> 写真や図を用いて話の内容が理解できるようにする。 短く端的に振り返る。 「ほっ」とするとはどんな気持ちのことか本時の学習を行う前に確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 「もしものときいきみならどうする？防災 ②家」(WAVE出版) 「ほっ」とした表情のイラスト

<p>展開</p>	<p>・本時のめあての確認</p>		
<p>(5分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ほっとバンダナをつくろう！</p> </div>		
	<p>・バンダナは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口元を覆うことができる（マスク代わり、煙や埃を吸わないように） ・怪我をしたところに巻いて傷を覆うことができる ・携帯しやすい（ランドセルにいれておける） 	<p>・実際にバンダナを用いて説明をする。</p>	<p>・バンダナ</p>
<p>(10分)</p>	<p>◎バンダナのデザインを考えよう。（中心発問） バンダナを見て「ほっ」とできる（心が落ち着く）といい。 →どんなことが書いてあったら「ほっ」とする？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの好きなもの ・みんなの顔 ・「しんこきゅう はなとろうそく」 ・ストレッチ ・だじゃれ 等 <p>・本を用いて「遊べるものがあると心が落ち着く」と伝える。 →「ほっ」とすることがマス目に書いてある「すごろく」を作ろう。</p>	<p>・心を落ち着かせられる、安心できるという視点で内容を考える。</p> <p>・心が落ち着くこと、安心することとはどのようなことか、予め確認しておく。</p> <p>・個別の支援をした上でも記入することが難しい児童には口頭でのやり取りのみ行う。</p>	<p>・ワークシート（1人1枚）</p>
<p>(15分)</p>	<p>・実際にかいてみよう！ 付箋にかいて黒板にある模造紙に貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生（2名） 自分の好きなものの絵を描く。 ・3～5年生（5名） その場で希望をとる。色はつけず、鉛筆のみ使う。 	<p>・個別に声掛けをして、安心して取り組めるようにする。</p> <p>・集中力が切れている児童がいたら、一旦立ち上がっていいことを伝える。</p>	<p>・付箋 ・模造紙</p>
<p>(5分)</p>	<p>・ペアで、記入した付箋を見せ合う時間を設ける。</p> <p>・全体で発表の場を設ける。</p>		

<p>まとめ (5分)</p>	<p>・まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ほっとバンダナがあればだいじょうぶ。 そなえあれば うれいなし！</p> </div>		
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを落ち着かせるための方法を考えることができる。(思考力・判断力・表現力等) 			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> バンダナの作成 <p>【外部との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災遺構 仙台市立荒浜小学校 			
<p>10. 学校内外で授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月に職員向けの研修報告会の実施。その中で本単元の学習をするに至った経緯、意義を伝えた。 児童の作成したバンダナを他の職員に紹介する時間を設ける。 			
<p>【自己評価】</p>			
<p>11. 苦労した点</p>	<p>東日本大震災の千葉県北西部での揺れ（震度5弱～強）を子ども達は経験したことがない。自分自身は実体験があるため、「大きな地震」と聞いたときに、立ってもいられず、物が落ちてくるような、あの時の揺れを思い出すことができる。子ども達は、「大きな揺れ」を想像することしかできない。</p> <p>本単元での学習に限らず日常生活の中で、想像して物事を考えることよりも実体験から学びを定着させることの多い本学級の児童に対して、どのように自分事として考えるきっかけを与えるかが難しかった。</p> <p>そこで本単元の学習の始めに、児童に馴染みのある「かるた」を用いて「防災」について触れるきっかけを作った。そして、内容をよりイメージしやすいようにイラストを使ったパワーポイントを用いて話を進めた。また、本単元の学習を進める期間で、下校後の時間帯に地震（震度3）が二度あり、「昨日、地震があったよね。」等との会話を児童と教員とですることができた。</p>		
<p>12. 改善点</p>	<p>本時の授業では「バンダナを作ろう」というめあてを提示したものの、「すごろくを作る」という活動に変わってしまった。「めあてと学習活動を一貫させる」という点を特に改善すべきである。</p> <p>自分の気持ちを落ち着かせる方法として、子ども達はバンダナに「みんなのすきなものをかく」「どうぶつ・さかなをかく」「食べ物をかく」「よしよしする」「友だちをかく」等と考えることができた。その上で「遊べるものがあると心を落ち着かせることができる」という視点で「すごろくをバンダナのデザインとする」という考えを教員から提示したが、この助言は必要がなかったと省みた。</p> <p>「自分の気持ちを落ち着かせる方法を考える」というねらいで「ほっとする方法を考えよう。」「ほっとするデザインを考えよう。」または「バンダナを作ろう。」等とめあてを提示し、考えを言葉や絵で表すだけの方が児童自身も活動内容を理解できたと思われる。</p>		

13. 成果が出た
点

分からないことは本やインターネットで調べたり、インタビューをしたりする活動を行い、子ども達は得た情報を紙に書いてまとめたり、友だちに伝えたりすることができた。本単元の学習に限らず、分からないことは調べたり他人に聞いたりすることは今後も必要な力である。これからも調べ学習を継続的に行いたい。

震災遺構「仙台市立荒浜小学校」での動画を子ども達に見せた。「小学校」という共通項があることと動画であることから、本学級のどの子どもも興味を持って視聴しており、津波による被害の大きさを子どもたちなりに感じ取れていたように思う。

「ほっとする」とはどんな気持ちのことかを考えた。抽象的なテーマであったが、「お風呂に入ったときにほっとする」との例や、ほっとした表情のイラストを示したところ、「ふとんに入ったとき」「美味しいご飯を食べたとき」「宿題が終わったとき」等と児童が自分の経験と重ね合わせて気持ちを想像することができた。児童が安心保障について考えることは当たり前と思われる日常の有難さを見つめるきっかけとなることが分かった。地震等の災害発生時だけでなく、日々の生活の中での安心を守るために、これからも児童とともに「自分をほっと（安心）させる方法」を考えていきたい。

14. 学びの軌跡
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

・子ども達の発言をパワーポイントでまとめた。

つなみは テレビでみたことがあるよ。

Q.「つなみ」ってなに？

こんなとき じしんがきたらどうしよう。

トイレのとき

みなと(うみ)のちかく

お風呂のとき

キャンプのとき

たいくかん

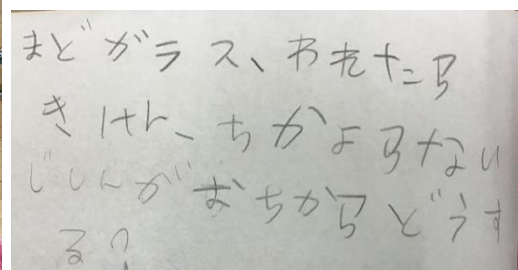
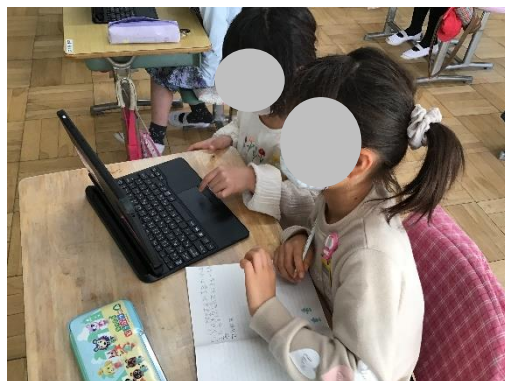
ねているとき

いつくるのか… わからない

じぶんのいのちをまもるために

Q.じしんがきたら どうする？

この後、タブレットと本で「地震がきたらどうなるのか。(被害について)」「地震がきたらどうするのか。(避難について)」等を調べた。自主的にメモを取る児童が4名いた。



・図書室にある防災関連の本を学級文庫として置いておいた。



「備え」についての話を教員がした際に、ある児童が本の内容を思い出して「防災グッズ」について他の児童に話をするという姿があった。

・本時の学習に向けて、「ほっとする（安心する）」とは、どんな気持ちのことか予め確認した。



「どんなときにほっとするか。」についての児童の意見

- ・ 温かいお茶を飲んでいるとき
- ・ ご飯が美味しいとき
- ・ 布団に入ったとき
- ・ おにごっこで逃げ切ることができたとき
- ・ 宿題が終わったとき

15. 授業者による自由記述

参考資料

・ こくみん共済 防災かるた

<https://www.zenrosai.coop/stories/bousaicarta.html>

・ Yahoo!きっず 「地震がおきたら...どうする？」

<https://kids.yahoo.co.jp/study/integrated/bousai/bsi001.html>

・ もしものときにきみならどうする？防災 ①学校・②家・③まち (WAVE 出版)